

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業 ぼんど		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 8 日		～ 令和 8 年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 8 日		～ 令和 8 年 1 月 31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりに合わせた支援	個別支援計画に基づき、子どもの発達段階や特性に合わせた支援内容を検討し、日々の活動や課題に取り入れている。職員間で情報共有を行いながら支援方法を検討し、子どもに合った関わり方ができるよう努めている。	定期的に支援内容を振り返り、必要に応じて支援方法の見直しを行う。また、研修や職員間の事例検討を通して支援の質の向上を図っていく。
2	職員と子どもの関係が良く、安心して過ごせる環境	子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、安心して過ごせる関わりを心掛けている。環境設定や声掛けの方法を職員間で共有している。	職員同士で関わり方を振り返る機会を設け、より良い支援方法を検討していく。
3	保護者との日常的なコミュニケーション	送迎時の会話や連絡帳等を通して、子どもの様子や活動内容を伝えていく。保護者からの相談にも丁寧に対応できるよう努めている。	面談やおたより等を活用し、支援内容や子どもの成長の様子をより分かりやすく伝えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害や安全計画の周知が不足している	避難訓練や安全確保の取り組みは実施しているものの、保護者へ十分に周知する機会が少なかったことが要因と考えられる。	避難訓練の実施状況や安全確保の取り組みについて、おたよりや掲示等で周知していく。
2	保護者支援の一環であるペアレントトレーニングや、地域との交流の機会が十分に設けられていない	日々の支援や送迎対応等を優先する中で、保護者支援プログラムの実施や地域との交流機会の企画・実施まで十分に取り組むことが難しい状況がある。また、未就学児を対象とした支援のため、安全面への配慮から地域交流の機会が限られていることも要因と考えられる。	保護者向けの情報提供や勉強会の検討、地域資源の活用等を検討し、無理のない形で取り組みを進めていきたい。
3	活動内容や支援の見える化が不足している	日々の活動のねらいや支援内容を保護者へ伝える機会が少なく、取り組みが分かりにくかった可能性がある。	おたよりや連絡帳、掲示等を活用し、活動内容や支援のねらいを分かりやすく伝えていく。